

来場者コメントをアート作品に 来場者が発信者として展示にも参加できる



濱崎 雅弘

はまさき まさひろ
masahiro.hamasaki@aist.
go.jp

情報技術研究部門
メディアインタラクション研
究グループ
研究員
(つくばセンター)

オンラインコミュニティに
関する研究を行っています。
ネットワーク分析やウェブマ
イニング、情報推薦といった技
術を用いて、オンラインコミュ
ニティの分析や支援システ
ムの開発をしています。社会
において欠かせない存在にな
りつつあるオンラインコミュ
ニティを、より良い方向に
発展させることを目指してい
ます。

関連情報：

● 参考文献

M.Hamasaki *et al.*:
*Proceedings of the
2011 ACM Conference
on Computer Supported
Cooperative Work*, 641-
644 (2011).

● 共同研究者

須永 剛司 (多摩美術大学)、
西村 拓一 (産総研)

● プレス発表

2011年2月1日「来場
者コメントを新たなアート
作品として可視化するシス
テムを開発」

● 用語説明

集合知：たくさんの人々が
協力したり競争したり互い
に影響を与えていく中で生
み出される、人々の集団自
体も持っているかのように
見える知性のこと。

●この研究開発は、JST 戦
略的創造研究推進事業チ
ーム型研究の支援を受けて
行っています。

展示の双方向化

博物館や美術館、各種展示会など実世界上の
イベントでは、来場者がただ展示物を見るだけ
でなく情報発信に参加する、双方向性のある展
示が求められるようになってきました。これま
でも来場者のコメントを壁に貼ったりネット
上で公開したりして、来場者の声を可視化する
試みはなされていましたが、多数のコメントが
ランダムや時系列に列挙されるだけで、すぐに
埋もれてしまっていました。今回、データの構
造化(属性情報の付与)が集合知により簡単に
行えるシステムを開発して、イベント来場者が
参加できる展示物を実現しました。

コメントカードをその場でアートに

この研究では、イベント参加者が感想や考察
を自由に記述したコメントカードの集まりを会
場内でアート作品として展示できるシステムを
多摩美術大学と共同で開発しました。このシ
ステムは多摩美術大学が開発した、カード間の
意味のつながりを幾何学模様として可視化する
システムと、産総研が開発したデータの意味を属
性情報として簡単に追加できるシステムとを組
み合わせたものです。

産総研の開発したシステムは、データを入
力する各ユーザーが属性を自由に定義(例えば
「人」のデータには「身長」や「体重」などの属性が
あると定義)できるようにすることで、みんな

の協力によって徐々にデータと属性定義が増え
ていく新しいデータベースシステムです。何を
属性とすべきかを簡単に判断できるように、入
力するデータに応じて、過去に誰かが定義した
属性をシステムが推薦する機能も持っていま
す。これまで、属性などのデータ構造は専門家
が事前に決めていたのに対し、みんなの知識(集
合知)によってデータを構造化していくことで、
より高度な検索や分類を可能にします。この技
術により、イベント参加者が作成した多種多様
なコメントカードを分類し整理する作業をその
場で行いながら、同時にコメントカード集合を
アート作品として、会場内で展示できるよう
になりました。

このシステムは2011年2月に国立新美術館で
開催された第14回文化庁メディア芸術祭協賛展
にて公開され、来場者による3,100作品への属
性付与に成功しました。

今後の予定

さまざまな可視化のアプローチをとりなが
ら、参加者一体型展示システムの開発を継続し
て行く予定です。また、データ構造化システム
については、コメントカードに限らない多様な
データ、例えば組織がもつノウハウや体験に基
づく知識など不定形な情報を対象としたシステ
ムへの展開に取り組みます。

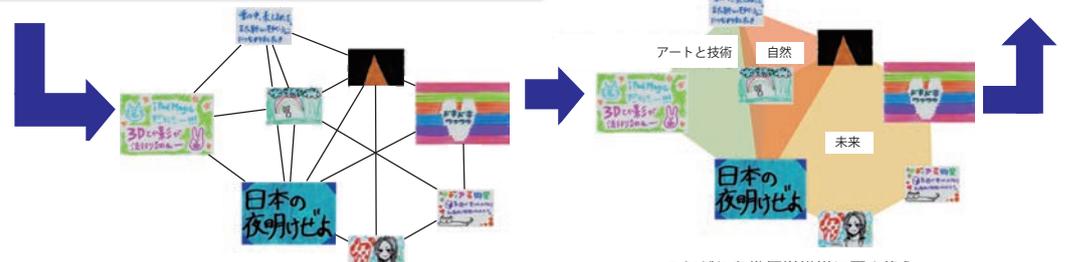
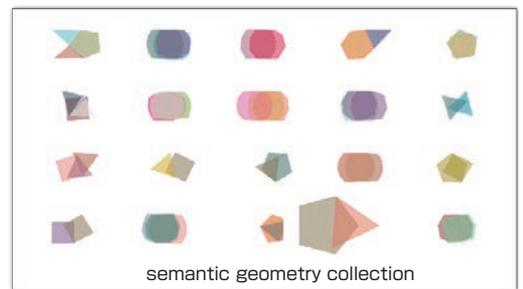


図 来訪者が感想や意見を自由に書き込んだ無数のコメントカードから一部を取り出して表示するとともに、コメントカード間の関係性をもとに幾何学模様を描き出す。